

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)マックスバリュ 浜松助信店	階数	地上2F
建設地	静岡県浜松市中区助信町258外19第	構造	S造
用途地域	商業地域、法第22条区域	平均居住人員	522 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年7月 予定	評価の実施日	2022年12月27日
敷地面積	6,680 m ²	作成者	遠藤正幸
建築面積	2,509 m ²	確認日	
延床面積	2,672 m ²	確認者	

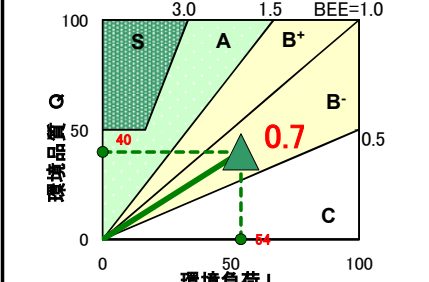


図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★★★★

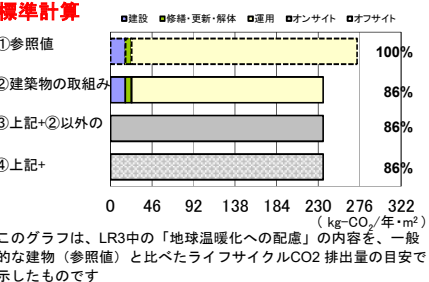
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

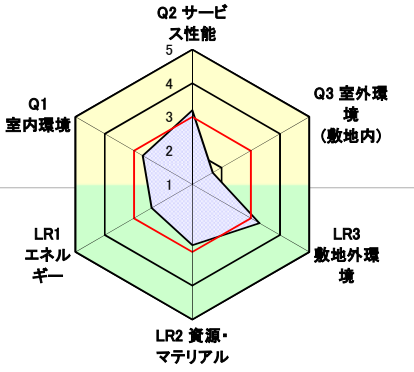
標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

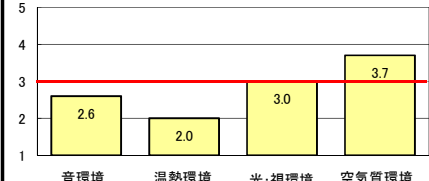


2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

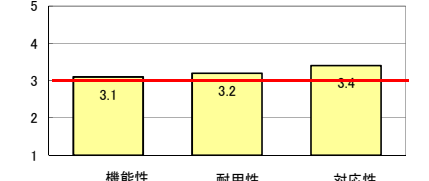
Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.7



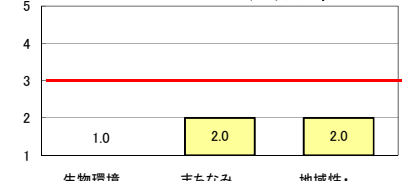
Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2



Q3 室外環境(敷地内)

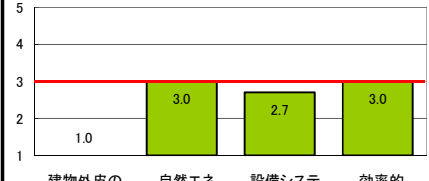
Q3のスコア= 1.7



LR のスコア = 2.8

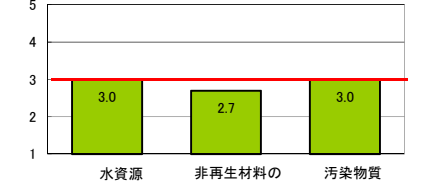
LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.4



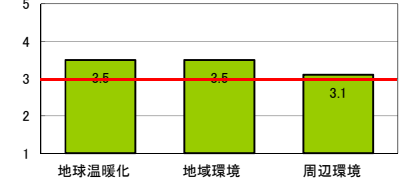
LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.8



LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
・高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、ライフサイクルCO ₂ 排出量の低減に努めている。		-
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用し、全館禁煙として室内の良好な空気質環境の確保を図っている。	・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。	-
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
-	・躯体と仕上材の分離を容易にすることで、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。	・周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。 ・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)マックスバリュ 浜松助信店	階数	地上2F
建設地	静岡県浜松市中区助信町258外19番	構造	S造
用途地域	商業地域、法第22条区域	平均居住人員	522 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年7月 予定	評価の実施日	2022年12月27日
敷地面積	6,680 m ²	作成者	遠藤正幸
建築面積	2,509 m ²	確認日	
延床面積	2,672 m ²	確認者	

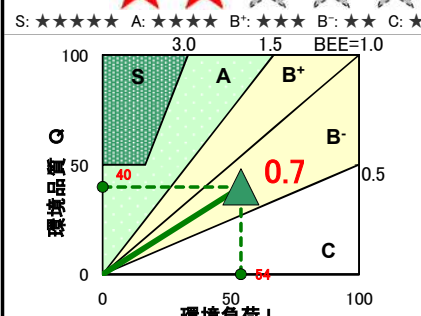


図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★



2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

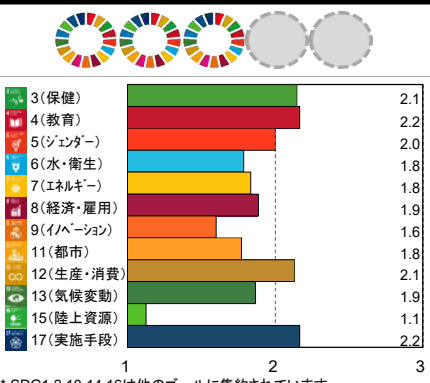
☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超 ☆

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 86%
③上記+②以外の 86%
④上記+ 86%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果



*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.7

音環境	2.6
温熱環境	2.0
光・視環境	3.0
空気質環境	3.7

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.2

機能性	3.1
耐用性	3.2
対応性	3.4

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 1.7

生物環境	1.0
まちなみ	2.0
地域性・	2.0

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 2.8

LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.4

建物外皮の	1.0
自然エネ	3.0
設備システ	2.7
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.8

水資源	3.0
非再生材料の 使用削減	2.7
汚染物質 回避	3.0

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3

地球温暖化	3.5
地域環境	3.5
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
・高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、ライフサイクルCO ₂ 排出量の低減に努めている。	-	
Q1 室内環境 ・ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用し、全館禁煙として室内の良好な空気質環境の確保を図っている。	Q2 サービス性能 ・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。	Q3 室外環境(敷地内) -
LR1 エネルギー -	LR2 資源・マテリアル ・躯体と仕上材の分離を容易にすることで、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。	LR3 敷地外環境 ・周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。 ・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)マックスパリュ 浜松助信店 新築工事	BEE	0.7	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度								
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価					
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.7	/5		がんばろう				
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9	/5		がんばろう				
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.9	/5		がんばろう				
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.3	/5		がんばろう				
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上		ふつう 3 点以上		がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	2.7	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④耐用年数の長い内装材・設備機器の採用により、建物の耐用性の向上に配慮している。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑬躯体と仕上材の分離が容易であり、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭高効率な設備機器の採用によりCO2の削減に配慮している。 	Q-1 2 2.1 2.2 ① Q-1 3 3.1 3.13 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	2.9
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ㉑将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉒地域性・アメニティへの配慮) 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑳	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉒ 地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	2.3	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) ■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) 	Q-3 1 ⑳ 2 ㉓ 3 3.2 ⑳ LR-2 2 2.5 ⑱ LR-3 2 2.2 ⑱	⑳ 生物環境の保全と創出 ㉓ まちなみ景観への配慮 ⑳ 敷地内温熱環境の向上 ⑱ 持続可能な森林から産出された木材 ⑱ 温熱環境悪化の改善		